

銀杏坂

～輝く薩摩中央～

令和8年5月13日(水)

令和8年5月13日(水)付南日本新聞にさつま町スポーツ合宿(バレーボール部春合宿)についての記事が掲載されましたので、紹介します。

スポーツ合宿最多1.5万人

多彩な設備、支援も充実

さつま・24年度

さつま町は年間を通してスポーツ合宿や大会の誘致に力を入れている。2024年度の受け入れ人数は、延べ1万5197人と過去最多を更新。今年も大型連休期間中の5月初旬だけで、水泳、バレーボール、ラグビー、ゴルフと小学生から大学生まで約8700人が練習に励んだ。一方で宿泊施設不足の解消が課題となっている。

5月2～6日に宮之城屋加。さつま町出身で県スイ内温泉プールであった「ドミングクラブ協会会長の若里ムム合宿」には、県内18クラブの小学生ら約80人が参加。9レインを備えるプールで、コーチの指導を受けた子どもたちが元気よく水しぶきを上げた。合宿は25年ほど続く。競泳男子平泳ぎの元世界記録保持者、山口観弘さん(志布志市出身)もかつて参加した。

わが町フラッシュ



コーチの話を聞く児童ら(さつま町の宮之城屋内温泉プール)

宿泊先不足が課題 ▶ 既存施設の活用検討



1ルが整い、使用料の減免など町の支援もある。とてもありがたい」と話す。同じく2～4日にあつた高校女子バレーボールの春合宿。鹿児島、宮崎、熊本、長崎の4県から過去最多29チーム計約550人がアクシースアリーナ宮之城(宮之城総合体育館)など四つの体育館で汗を流した。参加チームを取りまとめたのは、薩摩中央高校女子バレーボール部顧問の松井正太教諭(6)。休部中だったバレー部を赴任翌年の23年に再開させ、3年でチームを強豪に押し上げた。

以前、町内で合宿していたチームに呼びかけ、本格的な合宿を再始動させた。県外からの参加希望校も1校から5校に増えた。同校は町とパートナーシップ協定を結んでおり、松井教諭も寮生活を送る生徒への助成など、町のさまざまな支援に感謝する。

町内施設は充実している。天然芝3面のグラウンドやバレーボールコート4面がとれる総合体育館、一年中泳げる温水プールなどだ。宮之城温泉や紫尾温泉では心身ともに癒やせる。1993年度に官民で発足した「コンベンションタウンさつま推進協議会」が、合宿誘致に取り組んできた。

最大の課題は宿泊施設の不足だ。特に合宿が集中する大型連休時や夏場は各チームの希望通りにはいかない。「食事は業者をお願いしており、ありがたい。ただ、柔軟に対応するには施設確保など拡充が必要」と松井教諭。県スイミングクラブ協会の若松さんも同意見だ。こうした声を受け、コンベンション推進協会は既存施設の活用などができないか検討している。

(中島裕一郎)

4県のチームが集まった高校女子バレーボール合宿(さつま町の宮之城総合体育館)